

## 【フランス】高等教育進学制度の改革

海外立法情報課 安藤 英梨香

\* マクロン大統領の公約の一つである高等教育進学制度の改善を具体化するため、2018年2月14日、バカロレア制度の改革案が発表され、同3月8日には、進学先登録制度を改正する法律も制定された。

### 1 背景

#### (1) 現行制度の概要

フランスの高等教育機関には、バカロレア取得者に対して選抜試験無しに入学機会を提供する大学と、バカロレア取得後1年から2年の準備学級を経て個別試験を実施し学生を選抜するグランゼコールとがある。

高等教育機関への進学を希望する場合、全国で一斉に行われるバカロレア試験に合格する必要がある。バカロレアは、中等教育修了を認定する国家資格で、リセ（高等学校に相当）での課程ごとに、複数の系統に分かれている。リセは第1学年の共通教育課程を経て、第2学年から普通教育課程と技術教育課程とに分かれる。普通教育課程の生徒は普通バカロレア、技術教育課程の生徒は技術バカロレアの取得を目指す。それぞれの課程には、更に幾つかのコースがあり、普通教育課程の場合、科学系（S）、文学系（L）、経済・社会系（ES）に分かれ、普通バカロレアも同様の系統となる。

#### (2) 問題点

近年、バカロレア取得者の増加に従い<sup>1</sup>、個別試験を行わない大学への進学において、バカロレア試験が学生選抜の役割を果たさなくなり、進学希望者が定員を大幅に上回る大学や学部が急増した。そのため、2009年から、進学希望者が希望大学・学部により優先順位を付けて24まで専用サイトに事前登録し、定員を超えた場合はアルゴリズムによって抽選され進路が振り分けられるバカロレア取得後進学先登録制度（Admission Post Bac: APB）が始まった。しかし、APB制度については、アルゴリズムの基準が不透明であることや、優先順位、出身大学区（現在居住している又はバカロレアを取得した大学区）、定員数によって振り分けられ、リセの成績やバカロレアの成績が反映されないことから、不公平であり学習意欲を低下させるといった批判があった。

また、バカロレアはリセでの課程ごとに系統が分かれ、各系統が認定する教育内容や水準は異なるものの、大学入学資格としてはどの系統も同じように扱われる。受入枠があれば、取得したバカロレアの系統と異なる学部に進学することもできるため、大学中退や留年の一因ともされている。さらに、普通バカロレアのうち、グランゼコールにも進学しやすい科学系（S）がエリート視され、将来の選択肢を増やすために希望学部と関係なく科学系を選択したがる生徒が多いことから、系統別の現行バカロレアの在り方が問題視されていた。

\* 本稿におけるインターネット情報の最終アクセス日は、2018年4月6日である。

<sup>1</sup> 国民教育省によれば、バカロレア受験該当年齢人口に対するバカロレア取得率は、2000年時点で61.7%であったが、2017年時点で78.9%に達した。“Le baccalauréat 2017 - Session de juin,” 2017.7, Ministère de l'Éducation nationale website <<http://www.education.gouv.fr/cid56455/le-baccalauréat-2017-session-de-juin.html>>

## 2 制度改正の主な内容

高等教育進学制度への批判が高まる中、マクロン（Emmanuel Macron）大統領は、2017年の大統領選挙で、進学先登録制度及びバカロレア制度の改革を柱とする制度改善を公約に掲げていた。まず、2017年11月17日、高等教育へのアクセスを改善するための法案が提出され、「学生の進路指導及び学業の成功に関する2018年3月8日の法律第2018-166号」<sup>2</sup>として成立した。また、2018年2月14日、ブランケル（Jean-Michel Blanquer）国民教育大臣は、2017年1月24日に発表された、マチオ（Pierre Mathiot）元リール政治学院学部長による新しいバカロレア制度を検討するための報告書<sup>3</sup>を受けて、2021年に新しいバカロレア制度を開始するため、段階的に制度改革を行うとするバカロレア改革案<sup>4</sup>を発表した。

### (1) 法律第2018-166号によるAPB制度の廃止とParcoursup制度の導入

APB制度を廃止し、代わりにパルクールシュップ（Parcoursup）と称する制度を2018年度（学校年度開始は9月）から導入する。Parcoursupは、優先順位を付けずに10まで大学・学部を選択し、志望動機書を付けて登録する制度である。入学希望者の多い学部では、出身大学区は考慮されない。大学側は、求める適性・能力を明示し、それに沿わない生徒には、補習等レベル向上のための措置を受けるなどの条件を付けることができる。また、リセ最終学年での進路指導が強化され、各生徒の進路についての高校側の意見が、生徒の登録した大学に送付される。これによりAPB制度の不公平さが改善され、無条件で生徒を受け入れることによる定員超過や中退・留年への歯止めとなると共に、リセの成績が反映されやすくなり学習意欲の増進につながると期待されている。なお、Parcoursup登録用サイトは、2018年1月から公開されている。

### (2) バカロレア改革案による制度改正

改革案は、次の三つの内容から成る。第一にリセでのコース分けをなくし、バカロレアの科学系（S）、文学系（L）、経済・社会系（ES）といった系統を廃止する。リセでは共通科目の他、第1学年で専攻科目を3科目選択し、最終学年でうち2科目を学ぶ。第二に試験科目の見直しを行い、現在は系統によって10から15ある最終試験の科目を、全ての受験生にとって4科目にする。4科目の内訳は、専攻科目2科目、哲学及び口頭試験である。第三に筆記試験の比重を下げ、口頭試験とリセでの成績をより重視する。これにより、①従来の系統と異なる組合せで専攻科目を選択でき、学習や進路の選択肢が増えること、②中等教育と高等教育の学習内容が関連付けられ大学での中退や留年が減ること、③試験科目の削減と筆記科目の比重低下により、リセにおいてバカロレア試験及びその前後の期間も試験勉強以外の教育機能が維持されることが期待されている。この新しいバカロレアの制度は、2021年から適用される。

#### 参考文献

- ・大場淳「今、フランスの高等教育は？」『大学マネジメント』Vol.13 No.2, 2017.5, pp.16-23. <<http://home.hiroshima-u.ac.jp/oba/docs/daigaku-management2017-05%28france%29.pdf>>
- ・大場淳・夏目達也「第4章 フランスの高等教育における職業教育と学位」『学位と大学』第2号, 2016.8, pp.63-82.
- ・中島さおり「V バカロレアがやってくる！」『哲学する子どもたち—バカロレアの国フランスの教育事情—』河出書房新社, 2016.11, pp.197-248.

<sup>2</sup> Loi n° 2018-166 du 8 mars 2018 relative à l'orientation et à la réussite des étudiants. <<https://www.legifrance.gouv.fr/eli/loi/2018/3/8/ESRX1730554L/jo/texte>>

<sup>3</sup> Pierre Mathiot, *Baccalauréat 2021 - Un nouveau baccalauréat pour construire le lycée des possibles*, Ministère de l'éducation nationale, 2018.1. <<http://www.ladocumentationfrancaise.fr/var/storage/rapports-publics/184000052.pdf>>

<sup>4</sup> Ministère de l'Éducation nationale, *Dossier de presse, Baccalauréat 2021*, 2018.2.14. <[http://cache.media.education.gouv.fr/file/BAC\\_2021/00/0/DP\\_BAC\\_BDEF\\_web\\_898000.pdf](http://cache.media.education.gouv.fr/file/BAC_2021/00/0/DP_BAC_BDEF_web_898000.pdf)>